

駅まち空間における施策PDCAツールとしての人流データの活用

北村 将之*1 武内 雅俊*2 河野 健太*2 杉山 雅也*2 北川 悠一*3 伊藤 暁*3 松村 一保*3 山本 信弘*1
 *1:ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) *2:(株)JR西日本コミュニケーションズ *3:(株)JR西日本ITソリューションズ

1. 背景と目的

駅利用者の回遊状況の把握は、わかりやすく利用しやすい駅及び駅まち空間の創出のために必要である。従前は統計調査やカウント調査、アンケート調査で把握をしていたが、頻度・コスト面の課題があった。そこで、比較的容易に取得できるGPS人流データを活用し、まちづくりの施策PDCAツールの作成を目指した。

2. プロジェクトの内容

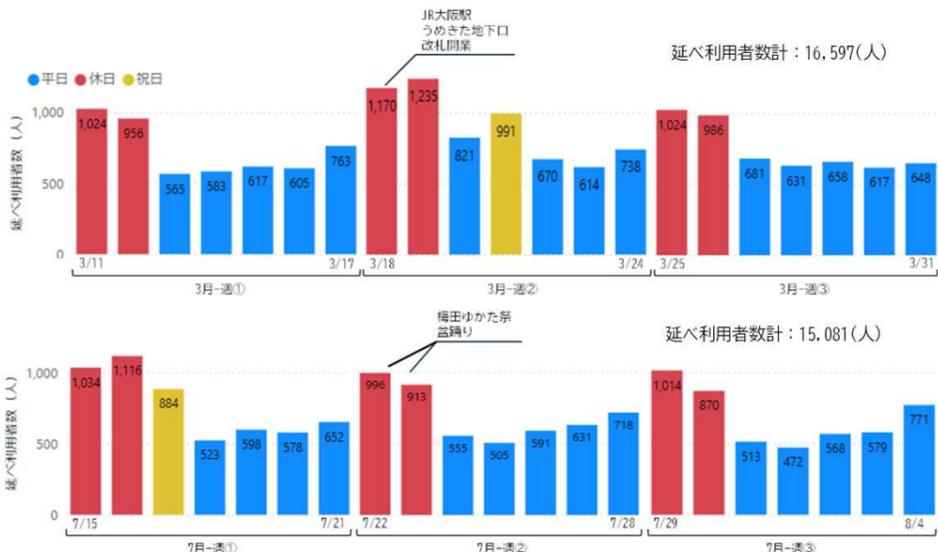
うめきた2期開業を控え今後大きな変化が推察される大阪うめだ地区の来街者の回遊状況把握を行うことを目指し、来街者の居住地・勤務地および属性、利用鉄道路線、分析対象施設の利用日・時間帯分布、複数の施設やエリア間における回遊状況等をデータダッシュボード上で可視化した。

3. 効果

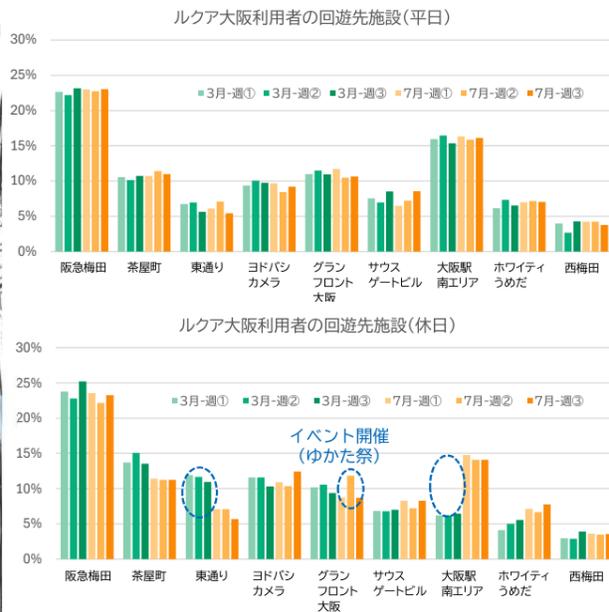
カウント調査等による店舗や通路での来街者数の計測方法に比べ、個々人の移動を長期間、広範囲に追跡することができた。複数パターンの可視化によって、探索型議論を進めることができ、従来の経験的・直観的な評価だけでなく、定量的な評価をすることができた。

使用データ等

使用データ : ログウォッチャー社 GPS位置情報データ
 分析対象 : ルクア大阪※利用者 ※JR大阪駅直結商業施設
 分析期間 : 2023年3月11日～31日 (計3週間)
 2023年7月15日～8月4日 (//)

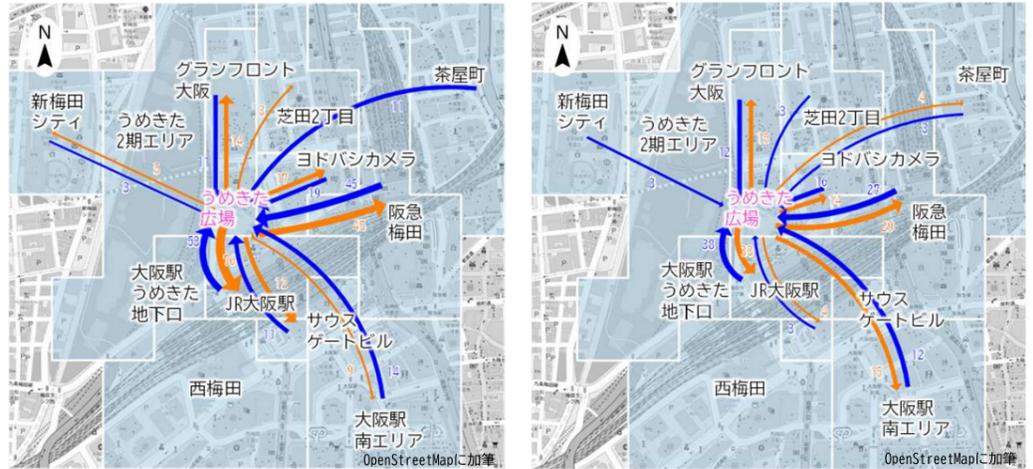


回遊状況(主要施設)



ルクア大阪の利用者が併せて利用している主要施設の割合 (主要施設をエリアごとに集計)

回遊状況(周辺エリア)



集計期間: 23年3月18日～24日

集計期間: 23年7月22日～28日

大阪駅北側の広場空間(うめきた広場)と周辺エリアとの流動量 (100mメッシュ間の流動量に基づく)

利用路線の分布



#	鉄道会社名	路線名	利用者数(人)
1	西日本旅客鉄道	東海道線	1,758
2	西日本旅客鉄道	大阪環状線	1,414
3	大阪市	1号線(御堂筋線)	1,180
4	阪急電鉄	宝塚線	524
5	大阪市	2号線(谷町線)	492
6	阪急電鉄	神戸線	481
7	阪急電鉄	京都線	445
8	阪神電気鉄道	本線	385
9	京阪電気鉄道	京阪本線	345
10	西日本旅客鉄道	JR東西線	301
11	西日本旅客鉄道	山陽線	277
12	大阪市	3号線(四つ橋線)	276
13	大阪市	4号線(中央線)	252
14	大阪市	6号線(堺筋線)	246
15	西日本旅客鉄道	福知山線	236

集計期間: 23年3月18日～24日

新たな気付き

JR大阪駅からの新快速1時間圏と比較すると、明石市(明石・西明石)より草津市(草津・南草津)からの来客が多い傾向にあった。

駅名(乗車)	鉄道会社名(降車)	路線名(降車)	駅名(降車)	利用者数(人)
大阪	西日本旅客鉄道	東海道線	草津	23
大阪	西日本旅客鉄道	東海道線	南草津	16
大阪	西日本旅客鉄道	山陽線	明石	10
大阪	西日本旅客鉄道	山陽線	西明石	6

これは、大阪と各地域の間にある都市(京都・三宮)の特性の違いによる可能性がある等の議論が進められた。

集計期間: 23年7月22日～28日



4. おわりに

GPS人流データを利用することにより、来街者の利用鉄道路線、施設やエリア間の回遊状況の他、居住地・勤務地、滞在時間の差異等についても把握することができた。

その結果、これまで経験的な捉え方であった事柄を定量的に示すことが可能であること、加えてデータを俯瞰することで新たな仮説・課題を見つけることができることもわかった。

今後は、現況把握に加え、施策の効果計測等、駅まち空間の施策PDCAのツールとなるよう取組を続けていきたい。

【お問合せ】ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)山本 信弘
 e-mail: yamamoto_n@jrnc.co.jp